

企画名：高齢者在宅看護情報交換会
実施日： 第1回 5月17日
企画実施組織：永田美和子・稲垣絹代・佐和田重信・八木澤良子・吉岡萌
<p>企画の目的・概要</p> <p>H25年度より開始した取り組みで、実習病院をはじめ、居宅介護支援事業所のケアマネージャー、訪問看護師など、北部の高齢・在宅ケアを担う保健福祉医療分野の多岐に渡る方々に参加していただき、「看取りを取り巻く現状」「保健医療福祉専門職の連携の在り方」など、回ごとに様々なテーマを設定し、参加者間での自由なディスカッションや情報交換を行うといった内容である。</p> <p>他施設で行われているケアや各々の課題を知ることで、各自の施設および北部地域全体でのケアの質の向上を目指していけたらと考えている。</p>
<p>企画実施報告</p> <p>昨年度より始まりました高齢・在宅ケア情報交換会ですが、昨年は多様な職種の方々に参加していただき1年を迎えることができました。会では地域連携のあり方、看取りや身体拘束などのテーマでディスカッションを行い、現状の課題が明らかになってきた。今年度も同様に情報交換会を行い、地域・施設での看護介護職種のケアの向上と施設間の関係作りを目指して行う予定である。</p> <p>今年度からの試みとして、参加して下さる施設に赴き、施設見学を兼ねた情報交換会にしたいと考えている。今のところ第4回まで実施場所は決まっており、それ以降の場所に関しては募集中である。</p> <p>今年度第1回目は5月17日（日）に名桜大学で行われた。参加者は介護福祉施設の介護福祉士の方や感染症認定看護師の参加があり、施設で行われている取り組みや課題について深いディスカッションした。その中で、沖縄県の特に関東北部地域では人材確保が困難であるという課題が出ました。介護の質の向上のために、地域全体で人員を確保するにはどうすればいいのか、介護職の教育体制の在り様、介護報酬の現状等々、これらは北部地域全体の課題であり、今後の情報交換会の中で“他施設の介護職種教育や人員確保の問題についての対策”などの情報提供を行って、みなさんで改善策を考えていけたらと考えていく必要がある。</p> <p>参加者 7名（地域施設1名 大学院生1名 教員5名）</p>
<p>企画の実施評価</p> <p>平成26年度の第1回であったが、広報活動が行き渡らず、参加者が少なかった。ケアの質の向上のためには、参加して情報交換をする必要がある。参加者を増やすように、実習施設への配布や品管の声かけを行う必要がある。</p>
<p>今後の取組み</p> <p>次回は、7月19日（日）13時～15時、場所はサービス付き高齢者住宅グリーンハウス（今帰仁村）で実施。事業提携をしている乙羽会の取り組みで、今帰仁で育てているウコンや沖縄野菜を使った薬膳料理を利用者に提供する。次回はその薬膳料理を頂きながら、管理栄養士さんから食事についての情報提供をしていただき、また参加者間では「施設での食事」をテーマにして楽しく情報交換会を行いたいと考えている。</p>



企画名：高齢者在宅看護情報交換会
実施日：第2回 7月19日
企画実施組織：永田美和子・稲垣絹代・八木澤良子・吉岡萌
<p>企画の目的・概要</p> <p>情報交換会は沖縄県北部地域の高齢者・在宅ケアの質を高め、施設間、地域間のつながり作りを目的としています。今年度から新たな趣向として、参加して下さる施設に赴き、施設見学を兼ねた情報交換会を行う。</p>
<p>企画実施報告</p> <p>第2回目は7月19日(土)に(株)山宗グリーンハウス(サービス付き高齢者向け住宅)にて行った。今回は主催者側としてグリーンハウスや連携施設の乙羽会スタッフ、管理栄養士、参加者には二見の里デイサービス施設スタッフ、グループホームかるすとスタッフ、名桜大学高齢在宅領域教員、院生であった。参加人数は14名であった。</p> <p>まずグリーンハウスの施設内見学を行った後、グリーンハウスや連携施設の乙羽園等で昼食時に提供している薬膳料理をいただいた。薬膳料理は国際中医薬膳師・管理栄養士により本格的に作られている。料理は見た目がとても彩り豊かで、味もおいしく、楽しみながら食すことができた。地元の食材を使用し、かつウコンなど体に良い効能がある食材を薬膳の考え方を踏まえて料理を作られており、食を楽しみ、健康になる食事は人生を豊かにするうえで大事であると実感した。食後には、参加者と施設での食についてディスカッションを行った。</p> <p>参加者の所属するデイサービス施設では、食事に制限(カリウム制限、塩分制限、嚥下食など)が必要な利用者へ個別食の提供を行ったり、行事食としてバイキングを行っている。自分で選んで食事することがデイサービスの利用者に好評を得たり、お出かけレクとして野外活動にてお弁当を食べる食事では、普段食欲のない利用者さんでも環境が変われば食欲が増すとの報告であった。このことから食事を提供する形や環境を変えることの効果を実感した。また、グループホームでは、利用者と一緒に食事を作ることを大切にしている、食事を作る過程もまた高齢者にとって楽しみや役割を担いその人らしさを尊重したケアにつながるのだと改めて感じた。</p> <p>一方で、食べてほしい一心で、主食と副食を利用者の断りもなく混ぜて提供することや、ミキサー食が一体何を刻んだものかが提供している側もわからない現状があり、対象者を中心に添えたケアができていない実態について問題提起された。食に対する楽しみを作り、栄養や食材の効能を考えた食事の提供からよい効果はたくさんあるが、その提供するスタッフの食事への考えや技術が伴わないとよいケアが繋がらないことをディスカッションから考えさせられた。同時に対象者の意思を尊重しながらケアを実践する重要性について改めて気づく情報交換会であった。ディスカッション後は参加者とともに乙羽園の炭酸泉の足浴を堪能した。</p>
<p>企画の実施評価</p> <p>参加人数および参加施設が限定され、まだ少ない状況であるため、早めにフライヤーを作成しPRする必要がある。</p>
<p>今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)</p> <p>次回は、平成26年9月20日(土)を予定である。次回はグループホームで実施予定であり、打ち合わせをして進める。</p>

企画名：高齢者在宅看護情報交換会
実施日：第3回 平成27年9月27日
企画の目的・概要 情報交換会は沖縄県北部地域の高齢者・在宅ケアの質を高め、施設間、地域間のつながり作りを目的としています。今年度から新たな趣向として、参加して下さる施設に赴き、施設見学を兼ねた情報交換会を行う。
企画実施組織：永田美和子・稲垣絹代・佐和田重信・八木澤良子・吉岡萌
企画実施報告 今年度第3回が9月27日（土）に名桜大学にて実施した。内容は10月から開始する在宅ケア実に向けての実習指導者を交えての意見交換会であった。 当日は、実習施設指導者（デイサービス、グループホーム、居宅介護支援事業所の職員・管理者）と昨年実習した学生、および高齢在宅教員が参加した。合計11名 始めに佐和田助教より、昨年実施したアンケート調査「在宅ケア実習における施設スタッフの看護実習に関する認識」の結果を報告致した。調査より、「学生との関わりから指導者やスタッフの学びになった」のように良い影響があった反面、指導者とスタッフの認識の違いや学生の実習目的が伝わらない、などの課題が挙げられた。その報告をふまえて、参加者間での活発な意見交換をした。 実習指導者の意見から、実習を受け入れることで学生の指摘が新鮮で自身の学びになったこと、学生に対し北部地域ならではのサービスの特徴や在宅の良さを学んでほしいという思いを確認できた。課題として、学生にどこまで（金銭面、経営の面など）指導をしたらいいのかわからない、実習期間が短く学生の学びや利用者への影響の不安、指導者やスタッフに学生の実習目的が伝わらない、などの意見があった。またその課題に対して、指導者からスタッフへ資料を活用した実習内容の周知や声かけの工夫、利用者・家族への実習の周知方法など、実際に施設で行っている工夫を情報交換できた。 教員側からも、学生指導時に学生に目的意識や積極性を持って臨んでもらう働きかけや振り返りの場の活用を促す関わりを見直し、実習期間の検討について話し合うことができた。その他、実習施設および北部地域の医療福祉の現状をありのまま学生と話し合うこともまた学生の学びにつながることを共有し、次世代の医療福祉を担う学生の可能性を広げる実習指導のあり方を考えることができた。
企画の実施評価 本年度より、各実習施設の輪番制であったが、今回は施設側と調整がつかずに大学側主催で行った。在宅ケア実習前の情報交換ができ有意義な時間となった。参加人数および参加施設が限定され、まだ少ない状況であるため、早めにフライヤーを作成しPRする必要がある。
今後の取組み 今回は、11月22日（土）14:00～16:00、場所は二見の里デイサービスで実施予定である。内容については施設側と検討し、早めにアナウンスをする。

企画名：高齡者在宅看護情報交換会
実施日：第4回 11月22日
講師：比嘉達也（介護老人保険施設 二見の里 在宅看護支援センター長）
企画実施組織：永田美和子・稲垣絹代・佐和田重信・八木澤良子・吉岡萌
<p>企画の目的・概要</p> <p>二見の里で取り組んでいる行事食とパワーリハビリについて紹介していただき、職員教育やキャリアアップについて、取り組んでいることや悩みなど参加者と共に意見交換を行う。</p>
<p>企画実施報告</p> <p>二見の里ディサービスセンターは「地域は屋根のない家族～ひとり一人がつくる助け合い～」を理念に掲げ、まさしく地域にいかされ・地域とともに歩む、誰もが支え合い、助け合うケアを実践されていた。その取組の一つとして、2か月に1回、地元の食材をふんだんに活かした「行事食」を取り入れている。今回も「行事食」をいただきながら参加者と情報交換をおこなった。お品書きも利用者の手書きで温かさを感じながらの食事で美味しく楽しくいただいた。情報交換では二見の里ディサービスセンターの事業紹介に加えて、災害時地域非難対策として各区と協力の中で、①災害時には、在宅介護支援センターを中心として、地域の避難の受け入れ先としてディサービスを解放していること、②区と合同で災害時避難訓練を実施し、自主防災組織の結成を支援することにより、地域支え合い体制づくりを目指していることなど、自主避難体制の仕組み作りの紹介があった。災害時に在宅酸素療法をしている方への酸素ボンベの補充への課題や公民館のみでの非難では、認知症の方への対応や夜間不眠への対応など個々人に応じた対応への限界があることが分かり、行政との連携のもとで支援する必要性を実感した。また、災害時の受け入れや避難訓練を通して、地域での一人暮らしの高齢者や認知症の方の生活の実態等が把握でき、より地域に密着したケアのあり方について示唆を得ることができた。それぞれの職場で災害時対策を見直す良い機会になった。さらに、二見の里ディサービスセンターで特に力を入れている「パワーリハビリ」について紹介していただき、参加者もトレーニング機器やリラクゼーション機器で普段鈍っている身体を動かしたり、マッサージをしたり、癒されとても有意義な情報交換会となった。</p> <p>参加者 15名（地域施設10名 教員5名）</p>
<p>企画の実施評価</p> <p>本年度より導入した施設での情報交換会は2回目を終了した。少しずつ、認知度も上昇し、各施設の特徴を理解しながらの情報交換会になってきている。施設説明で終了している状況でもあるので、今後はディスカッションを取り入れながら実施していく必要がある。</p>
<p>今後の取組み</p> <p>次回は、平成27年1月24日（土）14:00～16:00、場所はグループホームかるすつとで予定している。</p>



企画名：高齢者在宅看護情報交換会
実施日：第5回 平成27年1月24日
講師：平良律子(グループホームかるすと 管理者)
企画実施組織：永田美和子・稲垣絹代・佐和田重信・八木澤良子・吉岡萌
<p>企画の目的・概要</p> <p>グループホームの施設見学を実施するとともにグループホームにて、「理由があつて外に出る方」の対応を考える」テーマで情報交換を行う。</p>
<p>企画実施報告</p> <p>紹介者は、「家に帰りたい」と言つて外に出る入所者の方に対して、その希望を大切にしたいという思いがある反面、安全面を考えると交通事故などの不安があり、それが強いジレンマになっているということであつた。実際、一緒に数時間歩き続けることもあるということで、その方の「家に帰りたい」という思いの強さと脚力に皆驚きを禁じ得ない状況であつた。ディスカッションではまず、「その人」を理解するために、疾患や治療内容、人生や生活背景などの情報を共有し、あらためて医師や家族から情報を得たり、相談する必要があることに気づかされた。さらに、施設スタッフだけのマンパワーだけでは対応しきれないことが課題として挙げられ、地域密着型としての機能を活かすためにも、地域の人にこのような状況を知っていただき、理解・協力してもらうことが重要ではないかという示唆を得た。具体案としては、ボランティアを募り、一緒に歩いてもらつたり、地域の行事や祭りなどに参加させてもらつたり、地域や家族の人に自由に訪問してもらうことも挙げられ、今後は“外にでる方”から“地域の馴染の人”として受け入れてもらえるようなきっかけ作りをどう展開していけるかなど、次のケアにつながる示唆を得ることができた。</p> <p>参加者 14名(地域施設9名 教員4名 大学院生1名)</p>
<p>企画の実施評価</p> <p>本年度より導入した施設での情報交換会は3回目を終了した。今回の企画では、「理由があつて外に出る方の対応を考える」をテーマでディスカッションができ、解決の方向性の示唆を得ることができた有意義な会となつた。今後も身近なテーマから進めていく必要がある。</p>
<p>今後の取組み</p> <p>次回は、3月28日(土)に国頭村の居宅介護支援事業所 北斗園で実施予定である。</p>

